

環境触媒研究会

1. 研究会の目的

自動車等から排出される窒素酸化物、一酸化炭素、炭化水素、粒子状物質（PM）の浄化、揮発性有機物の除去、脱臭、フロン分解、水浄化、有害物質を発生しない反応プロセスなど、環境分野における触媒の役割はますます重要になってきている。本研究会は、このような社会的要請に対して、触媒科学およびプロセス工学の立場から貢献すべく、最新の情報を交換する場を提供することを目的としている。

2. 研究活動の概略、動向、展望

触媒討論会 A へのセッション参加が研究会活動の基本であるが、不定期なシンポジウムの開催および関係学会・シンポジウムへの共催を行っている。

2019 年度は、第 124 回触媒討論会（2019 年 9 月 18～20 日、長崎大学文教キャンパス）にてセッション参加を行った。発表件数は、一般講演 27 件（A1 講演 26 件、A2 講演 1 件）、ポスター発表 15 件であった。過去 5 年間の内、昨年度まで A 講演、ポスター発表の件数ともに年々増加傾向にあったが、今年度は講演件数が低下し、第 116、118 回触媒討論会と同様の水準となっている。A 講演件数の内訳は、大学・研究機関より 25 件、企業より 2 件となっている。本研究会では産学連携の推進を重要視しているため、今後は環境事業を推し進める企業の触媒学会への入会を勧誘するとともに環境触媒セッションへの申し込みを促す予定である。なお、第 125 回触媒討論会（2020 年 3 月 26～27 日、工学院大学）へのセッション参加も行うこととなっており、17 件のポスター発表が予定されている。

国際活動としては第 9 回東アジア環境触媒ワークショップ（The 9th East Asia Joint Symposium on Environmental Catalysis and Eco-materials）が中国の塩城市で開催され（11 月 5 日～8 日）、本研究会からも多数の出席者があった。今回より韓国の研究機関が参画しており、150 名以上が参加し、盛況となった。本ワークショップは環境触媒研究会として重要な行事であり、次回は 2021 年に福岡にて開催する予定である。

国内においては、自動車技術会との交流事業として排気触媒システム部門委員会（公開委員会）「化学と機械の協創による排ガス浄化触媒研究 最新動向」（2019 年 12 月 3 日）を共催した。また、元素戦略研究会と「第七回元素戦略に基づいた触媒設計シンポジウム」（2019 年 12 月 17 日）を共催した。次年度以降も継続的な交流を図る予定である。

3. 世話人

代表：永長久寛（九州大学 総合理工学研究院，einaga.hisahiro.399@m.kyushu-u.ac.jp）

世話人：岩知道均一（三菱自動車）、岩本正和（中大）、江口浩一（京大）、大塚浩文（大阪ガス）、小倉賢（東大）、小淵 存（産総研）、角田範義（元豊橋技科大）、薩摩 篤（名大）、清水研一（北大）、瀬川浩一（元上智大）、辰巳 敬（製品評価技術基盤機構）、田畑研二（元宮崎大）、難波哲哉（産総研）、羽田政明（名工大）、濱田秀昭（産総研）、平田裕人（トヨタ自動車）、細川三郎（京大）、堀 正雄（ユミコア日本触媒）、町田正人（熊大）、村山 徹（首都大東京）、御園生 誠（元東大）、八尋秀典（愛媛大学）、山下弘巳（阪大）